

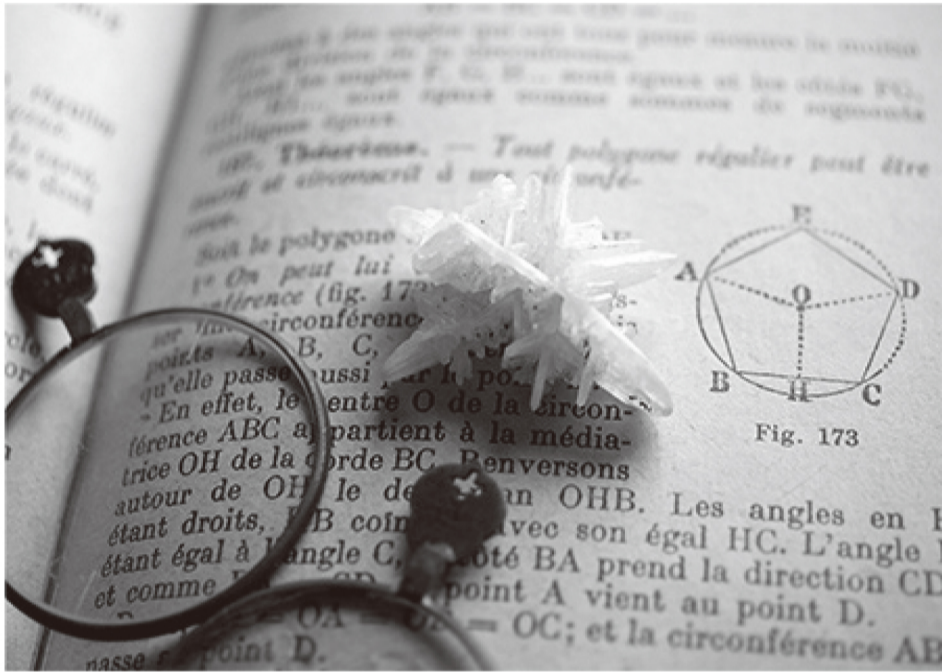
Publication

Date:2014.07.31
L'émetteur : Kirara-sha
3-37-1 Kamiya,Kita-ku,Tokyo
URL : http://kirara-sha.com/
Twitter : @cafeSAYA

Papier de Kirara

Journal de publier trois fois par an. Nouvelles sur le café SAYA et ses environs.

きらら舎ではフルカラー小冊子「きらら葉」と、このタブロイド版の新聞「Papier de Kirara」の2種類をフリーペーパーとして発行しています。「Papier de Kirara」は今号で7号目。自己紹介やコマーシャル、お知らせをメインに編集しています。年に3回の発行です。発行のスパンが長いので、手にしていただいた時期によっては過去の記事になってしまっているものもあるかと思いますが「ああ。そんなこともあったのか。」と、お読みいただければ幸いです。「きらら葉」については第36号より特集テーマを決めて保存版の内容に編集しています。7月晦日より配布のものは42号。「きらら舎的博物学のすゝめ」を特集しています。



▲ カードのカラー版と写真の説明はきらら舎サイトをご覧ください。

きらら舎的博物学のすゝめ

手元にはたくさんの永久プレパラートがあります。その多くはアンティークで、残りのものは、学習塾をやっていた時代に趣味で作っていたものです。学習塾経営時代、進学を目的としたクラスの他に、「勉強が楽しいと思えるためのクラス」がありました。このクラスでは学校の授業を少しだけ先取りして教えていましたが、それ以外の多くの時間は「不思議な実験」や「面白い工作」をやっていました。今思えば、この時間にやっていたことがそっくりそのまま現在のきらら舎になっているともいえます。塾で作っていた永久プレパラートはお気に入りの植物の茎の断片や花粉を封入し、ビクトリア朝時代のようなデコラティブなダブルラベルを付けたもの。この時に作ったものと現在の「プレパラート仕立て」はほぼ同じで、変わったことはラベル枠や飾りが手書きではなく凹版印刷だということくらい。

思えば小学校時代に大切にしていた鳥類図鑑(大人用のハンディータイプ)や植物記録帖(小学生の自分で行ける範囲で何月のどのくらいにどこに行くとか何があるという覚書と観察日記。たとえば荒川土手の土筆は3月下旬になるとスギナになってしまうとか、前の神社の椎の実実は今年10月上旬でも落ちていたなど)、長い間、部屋に飾っていた貝殻標本箱など、これがそのまま、「きらら舎的博物学のすゝめ」なのだと思います。

ヴィクトリア朝時代、特権階級も大人も子供もみな博物学に夢中でした。産業革命によるさまざまな技術革新がもたらした恩恵や経済の発展によることももちろん大きく、鉄道網の充実によって、人々は遠くの森や海辺へでかけ、その途中の車中では博物学の本を読みました。顕微鏡は人々を極微の世界へ誘いました。しかし、豊穡の時代に人々を熱狂させたのが博物学だったことに興味を抱くと共に、この時代に、人々を誘った博物学のフェロモンに、わたしも惹かれているのではないかとある時、感じました(この時代の人々の博物学に対する熱狂っぷりは、その全てが良しいえるものではなく、これについて語り始めると長くなるので割愛しますが)。

自然を知り、蒐集し、所有し、研究し、分類したいという欲求。これは多くの人間が持つものかもしれません。その後、深く研究することを選択した科学者はその対称を動物学や植物学へと狭めていきました。造形や存在に美を見出した者は文章や絵画で独自の世界観を展開しました。ヴィクトリア朝のアマチュア博物学者は、そのどちらにも進まず、自分の行動範囲の中で、自然のものを愉しみました。

リン・L・メリル(Lynn L.Merrill)は、著書『博物学のロマンス』(訳:大橋洋一・照屋由佳・原田祐貨)で、しょっぱなから「博物学を科学として扱い、博物学が現代的な意味で言う科学的になることを期待するのは、博物学にとって好ましいことではないし、博物学のたぐいまれな魅力をまったく無視することになる(p.18)」と書き、さらに「博物学の文章は文学と見なされるべきである(p.37)」と主張しています。もちろん、かなりの偏愛に満ちた意見ではあるのですが、それもすべては、原始的博物学のフェロモンを見失わないようにという警戒心から発しているように、思えなくもありません。

現代では博物学というと、専門的分野の研究を思い浮かべることが多いと思いますが、大元の博物学が発するフェロモンを残しながら、自然のモノを愉しみ、自分なりに調べたり実験したりして、にわか研究者になって遊び続けたいと思います。



きらら葉 42

きらら葉は2006年秋より発行しているフリーの小冊子です。テーマを決めて特集し、不定期に発行しています。

きらら葉42 2014年8月31日発行予定
「きらら舎的博物学のすゝめ」

- p2……独り言 #22 きらら舎的博物学のすゝめ
p4……鉱物倶楽部
p6……古物と模倣～理科趣味の部屋～
p8……カフェのガイド

